

周年。学校。紹介

秋田西高校

秋田西高校PTA会長 加賀谷 匡



今年度、秋田西高校は創立40周年を迎えました。

「Thanks for 40 〜輝く未来への第一歩〜」のテーマのもと、周年記念の諸事業は11月1日の記念式典と祝賀会をもって無事に完結することができました。参加いただきました皆様方、関係者の皆様方に心より感謝を申し上げます。

記念講演の講師は、本校19期生の高橋智史氏でした。「葛藤と挫折を乗り越えて ~行動は出会いを生み、出会いは勇気へ繋がった~」と題してのお話は、子どもたちに大きな励

ましを与えてくれました。 周年という節目に立 ち会った子どもたちは、 脈々と積み重ねられて きている歴史に思いを 馳せ、秋田西高生とし ての誇りと自覚を新た にしていました。



横手支援学校

横手支援学校教頭 熊谷 司



昭和54年、県立南養護学校と して開校し、今年度40周年を迎

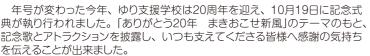
えた本校は、これまで様々な周年事業・行事を行ってきました。 5月には記念運動会、7月には記念コンサート、8月にはドローン空撮による集合写真撮影、学校裏山の遊歩道整備活動と続き、10月12日(土)には記念式典を開催いたしました。式典のアトラクションは生徒の進行で行い、30周年以後の学校のあゆみの紹介や、長年交流している横手城南高校生と一緒に「YOSAKOIソーラン」の披露等を行いました。御来實への記念品は中学部が、校内装飾のタペストリーは小学部が中心となって担当するなど、全校児童生徒が準備段階から活躍し、児童生徒が主役の記念式典になりました。





訓立20周年 phot 度

ゆり支援学校PTA会長 佐藤 徹



にかほ・由利本荘地区に唯一の支援学校ということもあり、行政をはじめ、 地域や学校関係者140名を超える参列者をお迎えすることとなり、改めて様々

な方にお世話に なっている事を 認識しました。

子どもたちが、 自分でできるこ とを最大限に生

かし、何事にも臆することなく様々な事にチャレンジし、新しい風をまきおこしていくことが、一人一人の社会参加の第一歩であり、 地域貢献につながることであると信じております。



東北大会準備委員会 開催される

第1回準備委員会が11月12日(火)秋田キャッスルホテルにて開かれました。担当となる中央地区各高校から校長、PTA会長、担当教諭等が参加し、大会要項や役割分担等について協議。根田達也実行委員長は挨拶の中で、「東北各県から参加される皆さんに、秋田ならではの心からのおもてなしをしましょう」「東北大会は各校PTA研修の絶好の機会。有意義な大会になるよう一丸となり頑張りましょう」と話されました。

- ◆期 日 令和2年7月2日(木)·3日(金)
- ◆会 場 秋田キャッスルホテル
- 秋田市文化会館、秋田キャッスルホテル ◆秋田大会テーマ
- 「次は"おとな"」

〜自ら選択し決断して生きていく力を 育むために〜





12年2月5日 秋田県高P連 第125号

秋田県 高P連会報

発行/秋田県高等学校PTA連合会 事務局/秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷/秋田中央印刷株式会社



母親会員交流会



教育懇談会

第69回 全国高等学校PTA連合大会

「Kyoから!未来を拓く」 ~受け継ぎ、 創る新たなストーリー~

調査広報副委員長 山崎 精輝(大曲工)

令和元年8月22日(木)23日(金)第69回全国高 等学校PTA連合会京都大会が「京都市勧業館みや こめっせ」及び「ロームシアター京都」を会場に『kyo から!未来を拓く』~受け継ぎ、創る新たなストー リー~をテーマに開催されました。全国からおよそ 10,000名、秋田県からは53名が参加しました。

22日は開会式及び6つの分科会が行われました。 メイン会場「ロームシアター京都 | で行われた開会式 やアトラクションは、各分科会場に中継されるもの でした。

私達大曲工業高校5名は、第5分科会『情報教育を 体験する~現代の子どもが学ぶ情報教育を体験して みませんか?~』に参加しました。講師は、LINE株式 会社の社員とオフィシャルインストラクターでした。 講話はipadを使った体験を交えながら進められま した。LINEのアプリが出来たのは2011年6月、東日 本大震災がきつかけだったそうです。日頃、何気なく 使っているスタンプ。言葉は、顔と顔を突き合わせて の会話ではないため、個人により受け取り方が違う とのこと。実際に5つの言葉、5つのスタンプで確認 したところ、確かに会場内でも受け取り方で意見が わかれました。会話では、その言葉の前後に言葉と 表情がありますが、スタンプは前後に文字もなく、絵 そのものになるため、より受け取り方に違いが出る ということを学びました。

生徒達が今後学ぶ『プログラミング教育』について も少しだけですが体験できました。実際の活用に当 たり、科目毎にどういう形でプログラム教育を進め ていけばいいかを文科省等と日々研究している状況 だそうです。情報教育は今後の子ども達に必要不可 欠な分野であり、情報モラル、リテラシーなども親と 子が一緒に考え、学ぶ時代であることを強く実感し ました。

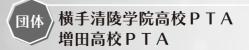
23日は、日本電産株式会社 代表取締役会長 永守重信氏の「学校教育・家庭教育に思うこと」と題 した記念講演と6分科会の報告がありました。京都 大会を通じて、学んだことをPTA活動を通じて、少し でも伝えていけたらと思います。来年度は東北地区 高P連東北大会が秋田で開催されますので、今回の 全国大会に参加した体験を基に素晴らしい大会に なるように準備等を進めていきたいと思います。



おめでとうございます

秋田県高P連 第125号

毎年、全国高等学校PTA連合会大会において、優れたPTA活動で教育振興などに貢献し た団体や個人に贈られる「全国高等学校PTA連合会長表彰」は次の2団体2名の皆様が受賞 されました。



令和2年2月5日

柏谷 真一氏 (県高P連前副会長、 角館高校前PTA会長) 川口 広美氏 (県高P連前副会長、 小坂高校前PTA会長)



左:木村忍氏(横手清陵PTA会長) 右:柏谷真一氏(角館前PTA会長)



石川友也氏(増田PTA会長)



全国大会に参加して

根田 達也 (秋田南) 第69回東北地区高P連秋田大会 実行委員長

令和元年8月22日(木)・23日(金)、「kyoから!未来を拓く」~受け継ぎ、創る新たなストーリー~をテーマ に、第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会が開催されました。

京都は、国による学校制度の創設に先立ち、住民自治の枠組みの中から日本初の学区制小学校が設立され た、日本の近代教育の魁となった地です。意外にも、その京都の地で全国大会が開催されるのは、69回目にし て初めてのことで、令和の幕開けに初開催を迎える熱意と活気にあふれる大会となりました。

約1万名が参加し、「ロームシアター京都」「京都市勧業館みやこめっせ」を会場に、式典、6つの分科会、京都 市内の大学訪問、ものづくり企業の訪問、文化財訪問など、京都の魅力を活かした多彩で工夫に富んだプログ ラムが企画され、教育について様々な角度から考える機会となりました。また、会員同士でその時間を共有する ことで、情報交換や関係を深めることもでき、大変有意義な大会となりました。

秋田県は、令和2年7月に第69回東北地区高P連大会の開催を控えます。秋田の土地や人、そして子供たち の魅力を発信しつつ、京都大会のように熱量をもった有益な大会になるよう準備を進めていきたいと思います。 秋田県高P連 第125号 令和2年2月5日

令和元年9月20日(金) 秋田市:県生涯学習センター

「心と体のリフレッシュ時間をあなたに

~子どもと楽しめる体操 空き時間にトライしてみよう!」

母親委員長 米川 享子

令和元年の母親会員交流会が9月20日に行われまし た。その名の通り母親の皆さんとの交流を目的として開 催されています。今年はそこに"リフレッシュ"を主題 として一日を過ごしました。

午前は講師に東北体操協会会長の藤田保隆氏をお招き して講演をしていただきました。お話しの途中で、脳ト レや指先を使った運動、先生ご自身によるピアノの演奏 などを交えとても個性的で楽しい内容でした。

午後は参加していただいた皆さんをグループ分けし、 コーヒーを飲みながらリフレッシュについて語り合いま した。十人十色ではないですが、皆さんそれぞれのリフ レッシュ法があり参考になることが多かった時間でし た。また、それぞれのグループ内での新たな交流もうま れました。

毎年交流会が開かれております。 私自身は2度目の参加でしたが、 2回とも普段の生活と全く違った、 楽しくて刺激的な経験ができ気分 転換にもつながる交流会の存在は とても素晴らしいと思います。









令和元年 10 月3日(木) 能代市:旧料亭金勇

「地域に根ざす若者を育てるために

~将来、仕事をするために身に付けさせたいこと~」

ニツ井高校PTA会長 佐々木 順也

県北地区交流大会は、木材加工で栄えた「木都」の栄 華を今に伝える貴重な歴史的建築物である国登録有形文 化財、天然秋田杉の殿堂旧料亭金勇の大広間で開催され ました。

開会式のあと、「子どもの不登校からおとなが学ぶこ と~子どもの可能性を信じられるか~」と題して、長信 田の森心療クリニック臨床心理士の水野京子氏の講演が ありました。「普通の家庭なんてどこにあるんだろう? この子が笑っていてくれる以外、何の幸せがあるのか。 全力で応援していきたい」の言葉が忘れられません。講 演の後半は、少年たちのトークを交えた長信田太鼓です。 勇壮で一糸乱れぬ太鼓のリズム、太鼓に、自分に、仲間 に、ひたむきに向かい合っている姿は、私たちの心に深



く刻まれました。 その後、能代 高校PTAの小 林建彦副会長 をファシリテー ターとし、県北 地区6名のPT A会長が研究主 題に沿って、親

子関係の築き方やコミュニケー ションの取り方、職場での若者と の関わり方などをディスカッショ ンしました。

閉会式後は、歴史ある金勇の施 設見学をするとともに、今回初の 試みである能代支援学校の生徒た ちの作品展とミュージカル発表の ビデオを御覧いただき、参加者に は生徒たちが作った作品のプレゼ ントがありました。その作品に感 動するとともに嬉しい記念品とな 講師 水野 京子氏 りました。



中央・県南地区からも参加いただき、情報交換会で は地元の料理と地酒に舌鼓を打ちながら和やかに、か つ盛大に交流することができました。開催にあたり多 くの方々に御協力・御支援いただきましたことに感謝 申し上げます。





地区交流会

令和元年10月4日(金) 秋田市:秋田ビューホテル

「各学校間の連携を密にし、PTA活動の充実と 地区協議会の活性化を図る」

秋田西高校PTA会長 加賀谷 匡

100名を超える方々にご参加いただいた中央地区交 流大会、おかげさまをもちまして盛会裏に終えることが できました。ご協力くださいました関係者の皆様、ご参 加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

ファザーリング・ジャパン東北の事務局長である本田 正博氏による「我が子の主権者・成年・SNS時代の家庭 教育の在り方」と題しての講演の中で「子育て四訓」の話 がありました。その中で高校生ともなれば自立していく ために、自分なりの生きがい、進路を歩んでいくときです が、気持ちの上で心を離してはいけない、心が繋がったと



きに、本当の意味で子ど もは自立できるという ことを教えていただき ました。



講師 本田 正博氏



後半のグループ別 意見交換では、「成年 年齢の18歳引き下げ について」をテーマに 話し合いが行われま した。家庭での悩み や、スマホ利用におけ る家庭の責任なども 話し合われ、「親の思 い」は同じであること を認識した次第で す。

参加された皆様の ご協力により、気づき の多い有意義な会と なりましたことを改め て感謝申し上げます。



令和元年9月27日(金) 湯沢市:湯沢ロイヤルホテル

「未来を創造する子どもたちへ」

雄勝高校PTA会長 髙嶋 雄一郎

「令和元年度県南地区交流大会」では、公務ご多用 中、秋田県高等学校PTA連合会会長 石嶋 勝比古様、秋 田県教育庁生涯学習課課長 中山 恭幸様、湯沢市副市 長 佐藤 一夫様を始めとする多くの御来賓の皆様にお 越しいただき、心より御礼申し上げます。

さて、令和へと時代も変わる中、「未来を創造する子 供たちへ」という主題のもと、講演会や分科会を開催し ました。講演は阿部 浩美氏による「保護者と学校を繋 げたい~キャリアコンサルタントの立場から~1の演題 で示唆に富んだお話がされました。また、第1分科会で は「子どもたちの安全を守るためには何が大切か」の



テーマで、SNSの利用について話し合われました。第 2分科会では「今、なぜPTAが必要か」というテーマ で、初のパネルデスカッションを行いました。第3分 科会では「生き抜く力」をテーマに、提言や活発な意 見交換が行われました。

開催にあたりまして、至らない点はあったと思いま すが、多くの皆様より御協力、御鞭撻を賜りまして、貴 重な意見交換をすることができた大会になったと思 います。この度は誠にありがとうございました。





11月19日(火)、保護者と県教委との忌憚の ない意見交換の場である「教育懇談会」が開催 されました。県教委から生涯学習課の中山恭幸 課長・青池研悟指導主事、高校教育課の藤澤修 副主幹。校長協会から安田浩幸秋田高校長、小 松弘樹能代工高校長、高P連関係者から役員・理 事12名の皆様が参加。

今年度のテーマは「高等学校新学習指導要 領」「いじめ問題」「ネットトラブル」の3点でした。特に「新学 習指導要領」では、成人年齢引き下げに伴い主権者教育がど のように行われているのか、また新科目「公共」のねらいなど について丁寧な説明がありました。「ネットトラブル」では、県 の「インターネットセーフティ事業」の実状を知ることが出来 ました。「通信手段の便利さは、子どもたちの人間関係づくり に変化をもたらしている」との指摘に、いまの時代ならでは の問題であることを改めて思い知らされました。使い方如何 では子どもの安全に危害を及ぼしかねない通信機器です。そ の使い方に関して、子どもに自覚を持たせるとともに保護者 も「知らなかった」ということが無いように学んでいく必要が あることを強く感じました。





後列 左:安田浩幸氏 右:小松弘樹氏 前列 左より藤澤修氏、中山恭幸氏、青池研悟氏

今年度の「合同委員会」は、11月7日(木)に全県PTA 担当者連絡協議会と合同で開催しました。

会の前半では、高校教育課の藤澤修副主幹から本県 高校の現状を進路、生徒指導の観点から、高校生の活躍 の紹介も含めて講話いただきました。その後、会務中間 報告や来年度の東北地区高P連秋田大会の準備進捗の 報告がなされました。また、子どもたちが安全に安心して 高校生活を送ることが出来るようにとの願いで県高P連 が損害保険ジャパン日本興亜株式会社に委託している 「高校生総合補償制度」の説明が担当者からありました。

その後、総務、健全育成、進路、調査広報、母親の5委 員会とPTA担当者協議会に分かれての協議、今年度後期 の事業や来年度の事業等について話し合われました。





健全育成委員会





進路対策委員会

母親委員会



令和元年度 秋田県高 P 連

秋田県高P連の広報紙コンクール審査 会は、令和2年1月11日(土)に行われ、 外部審査員の藤原謙氏(秋田魁新報社

事業局長)、鈴木修一氏(県生涯学習セ ンター所長)と調査広報委員9名が

審査にあたりました。

最優秀賞と優秀賞の3広報紙は、

東北地区高P連広報紙コンクー ルに推薦されました。

応募された各校には、今後 の広報紙編集に役立つ藤原 謙氏の助言を含めた講評 をお渡ししております。

秋田和洋女子高等学校 (東北地区高 Р連広報紙コンクールへ推薦)

・秋田高等学校 (東北地区高P連広報紙コンクールへ推薦)

· 秋田公立美大附属高等学院 (東北地区高P連広報紙コンクールへ推薦)

優良賞

秋田県高P連 第125号

·大館桂桜高等学校 ·秋田明徳館高等学校 (外部審査員賞)

・西仙北高等学校

·大曲農業高等学校

横手清陵学院高等学校

・能代支援学校

・ゆり支援学校 (外部審査員賞)

· 大館国際情報学院高等学校 · 能代工業高等学校

· 男鹿海洋高等学校 · 秋田中央高等学校 · 新屋高等学校

·由利工業高等学校 · 矢島高等学校 ・西目高等学校

・仁賀保高等学校 ・大曲高等学校 ・天王みどり学園

表彰は、5月29日(金)に開催予定の「秋田県高P連定時総会」にて行います。

「楽しく、チャレンジ」を

秋田魁新報社事業局長

新聞や雑誌、パンフレット、広報紙…。身の回りには たくさんの紙媒体があふれています。みなさんはどんな きつかけで手にしますか? 例えば旅行のパンフレッ ト。表紙には行く先や日程、料金に加え代表的な場所の 大写真が載っています。きれいな写真であれば旅行のイ メージがわくし、迷っている人たちをその気にさせてく れるきっかけにもなるでしょう。表紙は手にしてもらう、 ページをめくってもらうための動機付けでもあります。

全県から応募された21校の広報紙を審査させてい ただきました。保護者に贈る卒業生のメッセージを表紙 に載せた学校、学年ごとに特集ページを組んだ学校、創 立20周年の歩みを写真で振り返った学校など、手に取 ってもらうための工夫が随所にあり、楽しく読ませてい

ただきました。4年連続で審査していますが表紙、中面 ともに毎年、レベルアップしていることをうれしく思い

今回、特に驚いたのは1枚の紙を折り畳み、16ペー ジとした広報紙です。畳んでいるとA5判ですが、広げる と新聞サイズ(A2判)になります。表、裏ともに16ページ 建てなのですが、裏のページ全面が子供たちの集合写 真のみ、つまり大写真1枚のみの構成でした。新聞サイ ズですので全員の表情が分かり、その場の雰囲気も伝 わってきます。生涯、手元に置きたい宝物となったので はないでしょうか。チャレンジ大成功と思います。

編集後記に「まだ世に出ていない原稿を一足先に見 られることが密かな楽しみ」と書いた広報紙担当者が いました。そうした喜びを感じながら子供たちへの愛 情あふれる広報紙を作ってもらえればと思います。合言 葉は「楽しく、チャレンジ」です。

調査広報委員長

9月18日(水)県生涯学習センターにて「広報紙編集研修 会」が行われました。この研修会は、広報紙づくりの一助とな るべく毎年実施しているものです。今年度のテーマは「写真」。 講師は、日本広告写真家協会会員の營田慎一様((株)パズ ルリング)でした。

光の大切さ、シャッターと絞りの関係、構図(アングル)の 重要性などを、研修会場その場で撮影した写真をもとにし、 具体的にお話いただきました。写真は「その一瞬」の切り取り ですが、何を伝えたいのかをしつかり整理することが大切だ と力説。また、学校行事等撮影時の悩みや苦労している点な ど会場からの質問にも丁寧な助言をいただき、紙面づくりに 役立つことが多くありました。

見出し等の活字もさることながら、やはり掲載する写真か ら受けるインパクトが広報紙では重要です。ただ撮影するの ではなく、構図にこだわり、動きの中の瞬間をどう表現する かを考えて撮影することを心掛ける。これまでの写真と違つ たものになりそうです。思いを込めた写真が、各校広報紙を 彩ることを願っております。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。





